

■開催概要

- シリーズ名称 : 2022 鈴鹿クラブマンレースRound 5
- 主催 : 中日本自動車短期大学レーシングクラブ (ARCN)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 協力 : AASC、ARC、OCCK、KRHC、チーム淀
- 併催 : [2022 N-ONE OWNER'S CUP Rd.9] 運営: Hondaワンメイクレース事務局
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2022-2003
- 会場 : 鈴鹿サーキット フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数……63台
 フォーミュラEnjoy……13台
 2022 N-ONE OWNER'S CUP Rd.9……50台
- 開催日 : 2022年7月16日(土)・17日(日)
- 天候(路面) : 16日(土)／雨一時曇(ウェット→ドライ→ウェット)、17日(日)／晴後雨(ドライ→ウェット)
- 同日開催 : [SUZUKA Race Of Asia 2022]
- 主催 : グループ・オブ・スピードスポーツ (GSS)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)、
 ホンダモビリティランド株式会社
- 開催クラス : 2022 Fanatec GT World Challenge Asia Powered by AWS Rd.2……25台
 2022 Ferrari Challenge Trofeo Pirelli ASIA PACIFIC Rd.1……14台



★レースリザルトは
 インターネットでご覧いただけます。

■次回レース開催概要

- シリーズ : 2022 鈴鹿クラブマンレース Round 6
- 開催日・会場 : 2022年9月3日(土)・4日(日)・鈴鹿サーキット／フルコース (5.807km)
- 主催 : オムニバスクラブオブカンサイ (OCCK)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 開催クラス : スーパーFJ、FIT 1.5 Challenge Cup、FFチャレンジ、クラブマンスポーツ
- 併催レース : TOYOTA GAZOO Racing Yaris Cup 2022 西日本シリーズ 第6戦
 PORSCHE Sprint challenge Japan 第7-8戦



今シーズンは年間全7戦でタイトルが争われているフォーミュラEnjoy。第4戦となる今回は開幕戦に続く鈴鹿サーキットフルコースを使った大会となった

Race Of Asia 2022に海外からのチームやドライバーが参戦 国際色豊かだった鈴鹿クラブマンレースRound5

6月18日(土)・19日(日)に行われたRound4から約一ヶ月、7月16日(土)・17日(日)に今回もフルコースを舞台にした鈴鹿クラブマンレースRound5が開催されました。

今回のトピックは「Race Of Asia 2022」と併催されたこと。そのうちの「2022 Fanatec GT World Challenge Asia Powered by AWS Rd.2」は、5月にマレーシアのセパン・インターナショナル・サーキットで開幕。鈴鹿サーキットで開催された今回の第2戦をはじめ、富士スピードウェイ、スポーツランドSUGO、岡山国際サーキットと4戦連続して日本で開催されます。フェラーリ、ランボルギーニ、ポルシェ、メルセデスAMG、アウディ、マクラーレン、アストンマーティンなど、車種のバラエティ豊富なのも観戦者を楽しませている点。徹底したイコルコンディションが管理されているこのレースらしく、周回ごとに展開される激しいバトルに注目が集まりました。

同じく「2022 Ferrari Challenge Trofeo Pirelli ASIA PACIFIC Rd.1」も大いに盛り上がりました。文字通りフェラーリのワンメイクレースであるこのレースは今回の鈴鹿に続き、7月22日(金)～24日(日)に富士スピードウェイでも開催されます。

鈴鹿クラブマンレースとしては、「フォーミュラEnjoy」や「N-ONE OWNER'S CUP」のレースでも好バトルが展開されました。レコードラインが乾き始めた中で行われた「フォーミュラEnjoy」のレースでは終始クリーンなレースが披露されました。また、「N-ONE OWNER'S CUP」には50名の参加。各コーナーで激しいバトルが展開されるレースとなりました。

次回はまだ夏の暑さが残る9月3日(土)・4日(日)に開催されるRound6。いよいよシーズンが終盤戦に差し掛かり、タイトルを狙って白熱したバトルが披露される次戦にも是非ご期待ください。



HondaのN-ONE、ナンバー付き車両を使ったワンメイクレース「N-ONE OWNER'S CUP」。今シーズンは全16戦でタイトルが争われており、今回は第9戦だった

■フォーミュラEnjoy Class

ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートのT.山口。それにポールポジションスタートの小嶋禎一、3番グリッドスタートの大川文誠と続く。T.山口と小嶋の2台がオープニングラップから早くも大川以降を引き離しにかかる。T.山口はさらに小嶋をも離すと単独トップに。T.山口、小嶋、大川、4番グリッドスタートのRyuu Mao、9番グリッドスタートの東幸夫、5番グリッドスタートの安田知弘のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。2周目にRyuu Maoが大川をパスして3番手に。2番手を走る小嶋がファステストラップをマークしながら徐々にトップT.山口に接近。しかし、T.山口が再び小嶋を引き離すことに成功する。T.山口が2位以降に3秒013のアドバンテージを築いて初優勝を飾った。



7月16日(土)の公式予選で唯一の2分48秒台となる2分48秒749をマークした小嶋がポールポジションからスタート。その小嶋がスタートでT.山口に並ばれる



一時的に小嶋に迫られたが、再び独走状態となったT.山口(写真中央)が総合優勝。総合2位は小嶋(同左)。Ryuu Maoが総合3位でチェッカーを受けた

■フォーミュラEnjoy Class マスターズカップ



マスターズカップを制したのは総合2位の小嶋(写真中央)。2位は総合3位のRyu Mao (同左)、3位は総合4位の大川だった

■2022 N-ONE OWNER'S CUP Rd.9

ポールポジションからスタートした岩間浩一がホールショットをゲット。それに2番グリッドスタートの窪田俊浩、3番グリッドスタートの新田康二と続く。岩間はスプーンカーブあたりまでに後続を引き離すことに成功すると、その岩間、窪田、新田、板倉慎哉、柿沼秀樹、清水健一とグリッドのオーダー通りにオープニングラップを終了。単独トップを走る岩間の後方では窪田も単独2番手に。その後方では新田、板倉、柿沼の3台がテールtoノーズのバトルを展開する。2周目に新田をパスした板倉が次第に単独3番手に。その間も岩間はファステストラップをマークしながら単独トップの座をさらに盤石なものとする。その岩間が窪田以降に1秒912のアドバンテージを築いてトップチェッカーを受けた。



岩間が公式予選で2番手タイム以降を1秒486引き離す3分06秒561をマークしてポールポジションを獲得。その岩間が良いスタートを披露する



安定した走りを披露した岩間(写真中央)がポールtoウィン。2位チェッカーは窪田(同左)。板倉が4番グリッドスタートからひとつ順位を上げて3位となった

■2022 Fanatec GT World Challenge Asia Powered by AWS Rd.2

このシリーズはヨーロッパやアメリカで開催されている「GT World Challenge」と同じ位置づけのレース。2020年と2021年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、アジアではシリーズ自体が不開催。そのため、日本での開催は3年ぶりということになる。

今シーズンからは従来のGT3、GT4の2クラスに加え、GT2、GTCの各車両が参戦できるように。また、日本で開催されるRd.2からRd.5の4大会/8レースに参戦する日本チーム/日本人ドライバーには「ジャパンカップ」というタイトルがかけられ、シリーズ中のカップ戦として争われることとなったこともあり、より激しいバトルになることが予想された。



7月16日(土)の午前にGT3クラスとGT4クラスに分けて公式予選が行われた後、その午後にレース1が、翌17日(日)の午後にレース2が開催された



セーフティカーランのまま終了したレース2でトップチェッカーを受けると同時にGT3クラスを制したのはYusuke YAMASAKI/Yorikatsu TSUJIKO(写真中央)だった

■2022 Ferrari Challenge Trofeo Pirelli ASIA PACIFIC Rd.1

フェラーリのワンメイクレーシングカーを使ったレースである「フェラーリチャレンジ」は1993年にスタート。30年近く開催が続いているこのシリーズは今シーズンは「フェラーリ488チャレンジEVO」を使い、ヨーロッパ、北アメリカ、アジア・パシフィック地域などで開催されている。こちらも新型コロナウイルス感染拡大の影響により、日本で開催されるのは3年ぶりとなった。



このカテゴリも7月16日(土)、17日(日)にそれぞれレース1・2が行われた。レース1でポールtoウインを飾ったYudai UCHIDAがレース2でもポール to ウインとなった



ウェット宣言が出され、セーフティカースタートによって始まったレース2でもYudai UCHIDA (写真中央) が総合優勝。UCHIDAがレース1・2ともに制する結果となった

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

フォーミュラEnjoy Classマイスターズカップで優勝

小嶋 禎一 選手 (Freccia Rossa 22)



普段クラシックF1でもサーキットを走っている小嶋選手。「フォーミュラEnjoyを速く走らせるのはF1以上に難しい」と語る

Q: 2DAY大会の今回は7月16日(土)に公式予選が行われました。ヘビーウェット路面でのアタックで唯一の2分48秒台をマークしましたね。

「ディレイになったりしてコンセンレーションを保つのが難しい予選でした。同じタイヤを決勝レースでも使わなければならないのでタイヤを労わりながら走りましたが、毎コンマ8秒ずつ詰めることができ、最終的に狙ったタイムを出せて良かったです」

Q: 決勝レースでは中盤にトップを走るT.山口選手に接近して見せ場を作りましたね。総合2位チェッカーでした。

「T.山口選手は速かった。今回は完敗です。敗因はスタートで出遅れたこと。コーナーで食いついていけるように頑張りましたが、ストレートスピードが遅く、パスすることはできませんでした」

Q: 鈴鹿フルコースでの第1戦では3位、同西コースでの第2戦では優勝、第3戦岡山国際サーキットでは2位。第2戦に続く2勝目が待たれますね。

「2勝目を狙っていたのですが、総合2位で残念です。フォーミュラEnjoyは難しい。パワーがないのでブレーキを残してコーナーに入る必要がありますし、アクセルワークも大事。コーナーでスピードを落とさないことが大切なんです。来月からFIA-F4に参戦します。フォーミュラEnjoyに参戦するのは最終戦の第7戦。いろいろなマシンに乗り、練習を積んだ成果を発揮したいと思います」